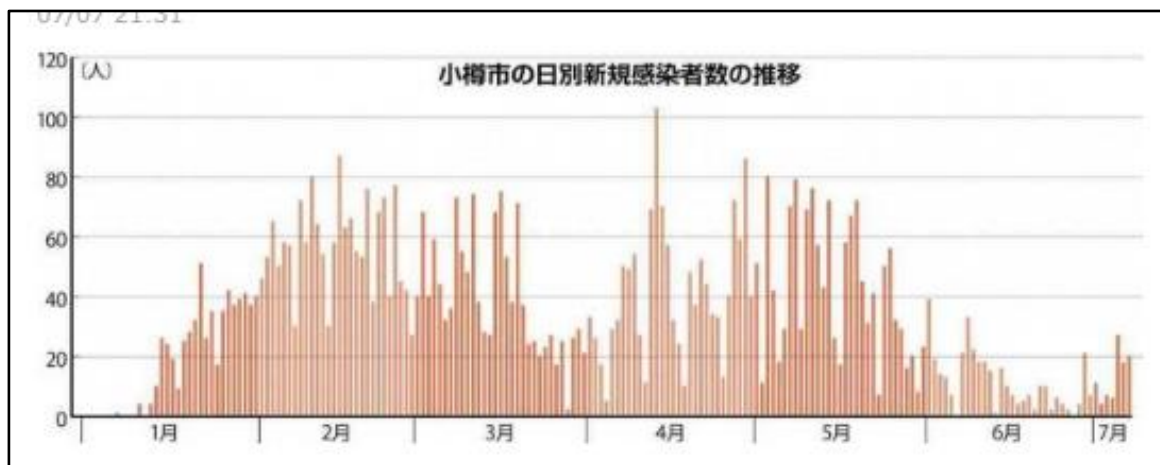


感染「第7波」懸念 小樽20人、3日連続2桁 観光への影響避けられず？ 保健所「3回目接種を」

2022/7/7 北海道新聞



新型コロナウイルスの感染者数が全国的に増え、小樽市内でも増加傾向となっている。7日の新規感染者は20人となり、3日連続で2桁。国内で感染力が強いとされるオミクロン株派生型「BA・5」への置き換わりが進んでいるとみられ、小樽でも感染「第7波」への懸念が高まってきた。医療関係者は「基本的な感染対策を徹底し、重症化予防のためワクチンの3回目接種をしてほしい」と呼び掛ける。

第6波で市内は1月中旬から感染者が増え、2月は月別で最多の1585人を確認。2～5月は毎月1千人を超えたが、6月は337人と落ち着いていた。しかし、6月末からは再び増加傾向に。7日現在、市内の直近1週間の10万人当たりの新規感染者数は84・9人で、前週の同40・2人から倍増している。7日には小樽分20人を含め、管内で新たに25人の感染を確認した。

感染者増は全国的な傾向で、東京都では1日の新規感染者数が8千人超に。政府は7月前半を予定していた全国対象の新たな観光支援事業「全国旅行支援」の開始時期を延期する方向で調整しており、増加傾向がさらに顕著になれば、観光都市小樽への影響は避けられない。

厚生労働省の専門家組織「アドバイザリーボード」はBA・5について「国内の主流となり感染者数の増加要因となる可能性がある」との見通しを示す。札幌では今月に入りBA・5の感染者が確認。小樽市保健所によると、市内でのBA・5感染例は確認されていないが、「これまで同様に東京や札幌の感染者増に合わせて小樽でも増える可能性が高い」と警戒する。

6日時点での市内の3回目ワクチン接種率は66・7%で全道平均を上回る一方、20～40代の接種率は40、50%台だ。市がウイングベイ小樽（築港）で8月27日までの金、土曜（同月12、13日を除く）に行う集団接種予約率も7日現在で32・8%と低迷する。副反応への警戒感が背景にあるとみられるが、市保健所は接種を呼び掛けている。

BA・5を巡っては、ワクチンによる感染予防効果が低い可能性がある一方、重症化予防は一定の効果があるとされる。小樽市医師会の鈴木敏夫会長は「3回目接種に加え、換気で微細な飛沫（ひまつ）によるエアロゾル感染への対策を徹底してほしい」と話す。

7日の市発表は再陽性3人を含む20人で軽症か無症状。うち9人の感染経路が分かっていない。死者の発表は6月9日以降、ゼロが続いている。道発表の町村部は新規感染者5人のうち1人の感染経路が不明。管内の感染者は市発表の延べ7899人を含め、延べ1万2459人となった。(久慈陽太郎)